

平成30年8月定例教育委員会会議録

平成30年7月26日 定例熊谷市教育委員会を熊谷市役所議会棟第一委員会室に招集する。

- 出席者
野原 晃、西山 富由紀、加藤 道子、齋藤 洪太、本塚 雄一郎
- 出席事務局
教育次長 小林 教子
教育総務課長 田島 斉
学校教育課長 渋谷 昌美
社会教育課長 鶴田 敏男
中央公民館長 森田 安彦
文化センター所長 田中 博
教育総務課副課長 田谷 憲司
教育総務課主幹 増田 彩子
学校教育課指導主事 川端 純一
- 平成30年度第16採択地区教科書選定委員会委員長及び委員4名

9時05分 定例教育委員会開会

教育長から、平成30年8月定例熊谷市教育委員会の開会の宣言があり、傍聴希望者10名の入室が許可された。

本会議の会議録の署名人には、齋藤委員が指名され、7月定例教育委員会の会議録について、委員の承認を得た。

教育長から、議案第32号及び議案第33号の採決部分並びに議案第34号及び議案第35号は非公開としたい旨の発議があり、出席委員全員が賛成し、非公開で審議されることに決定した。

教育次長から、西山委員が所用により到着が遅れることの説明があり、教育長が途中入室を許可した。

日程第1(報告第8-1号) 寄附申出について

教育総務課長から、6月11日から7月10日までに、ふるさと納税で「熊谷教育の推進のため」として、4件、計5万円の寄附申出、また、秩父鉄道株式会社から「SLパレオエクスプレスに親しみを持ってもらうため」として、市内小学校29校に対して、絵本『ぼくはSLパレオエクスプレス』100冊の寄附申出があったとの報告があった。

日程第1（報告第8－2号）8月教育委員会行事予定について

教育総務課長から、報告様式の一部変更についての説明があった。

日程第2（議案第32号）平成31年度使用 小学校用教科書（特別の教科 道徳を除く）の採択について

日程第2（議案第33号）平成31年度使用 中学校用教科書（特別の教科 道徳）の採択について

教育長から、議案第32号と議案第33号は関連があるため一括して説明するよう発言があり、事務局及び教科書選定委員長から、以下のとおり説明があった。

○事務局 両議案は、平成31年度から熊谷市立小・中学校で使用する教科用図書の採択をお願いするものであり、教科書の採択については、『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』第21条第6号、及び『義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律』第10条の規定によって、埼玉県教育委員会の指導助言の下、本市教育委員会で行うこと。」とされている。今年度採択する教科書は、小学校の「特別の教科 道徳」を除くもの、及び、中学校の「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」という。）である。

○教育長 本日まで教科書調査研究専門委員会による研究、学校研究及び教科書展示会アンケートを基に、教科書選定委員会において、全ての教科書について協議、検討を重ねてきた。

本日の協議では、教科書選定委員長から、これまでの協議、検討を基に、本市の小・中学校で使用する教科書について推薦を行い、教育委員会委員の皆様には、この教科書選定委員会からの推薦について、協議を行っていただき、協議終了後、議案第32号及び議案第33号、それぞれの議案について採決する。

まず、道徳科を除く小学校用教科書について説明を求める。

（西山委員入室）

○選定委員長 はじめに、道徳科を除く小学校用教科書について、報告及び推薦をさせていただく。

本市が、平成27年度から4年間使用している教科書について、この4年間、毎年度全小学校及び全中学校への学校訪問において、指導主事が教科書の使用実績を把握してきたとの報告を受けている。また、本年度改めて、市内全ての小学校29校において、学校研究を依頼し、要望等を調査した。これらの結果から、現在使用している教科書については、児童にとっても、これを使う教員にとってもよい教科書であるということが判断できるため、この結果を尊重し、教科書選定委員会としては、現在使用している次の教科書を平成31年度使用教科用図書として推薦する。

国語、教育出版株式会社
書写、教育出版株式会社
社会、東京書籍株式会社
地図、株式会社帝国書院
算数、東京書籍株式会社
理科、教育出版株式会社
生活、東京書籍株式会社
音楽、株式会社教育芸術社
図工、開隆堂出版株式会社
家庭、開隆堂出版株式会社
保健、東京書籍株式会社

(質疑なし)

○教育長 続いて、中学校用道徳科の教科書について説明を求める。

○選定委員長 道徳教育及び道徳科では、子供たちがよりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。本市では、道徳科の授業における子供の心の変容の見える化はもとより、教育活動全般、実生活の中においても「道徳の見える化」、つまり、子供たちの道徳的実践が積極的な行為として習慣化し、まわりの友だちや家族はもちろん、地域の方々にも目に見えるようにする。これが、熊谷市独自の「道徳の見える化」である。

本市作成のリーフレットには、「道徳の見える化」のための工夫例が示されており、その中に、「道徳科では、教材・教具（場面絵や短冊、心や気持ちを色で表す教材、手紙、パネルシアター、紙芝居など）を工夫したり、スキル学習でもある役割演技や動作化、話し合い活動などの指導法を積極的に取り入れたりすることにより、子供たちが自分の問題として道徳的価値に深く共感し、主体的に道徳的実践ができる力を身に付けさせる。」とある。

昨年度、文部科学大臣の検定に合格した教科書発行者は、「東京書籍株式会社」、「学校図書株式会社」、「教育出版株式会社」、「光村図書出版株式会社」、「日本文教出版株式会社」、「株式会社学研教育みらい」、「廣済堂あかつき株式会社」、「日本教科書株式会社」の8社である。

本市が進めている、この「道徳の見える化」の視点から、埼玉県教育委員会の調査資料及び第16採択地区教科用図書採択に係る教科書調査研究専門委員会からの調査研究結果を参考とし、まずは、それぞれの教科書の特長について報告する。

【東京書籍株式会社の教科書の特長】

本教科書は、問題意識をもち、多様に考えることができるよう、各学年で1か所、

問題解決的な学習を提示する教材が掲載されている。また、学期ごとに、自己評価用紙により、振り返りを行うことができるようにしている。考え、議論することを通して、道徳的価値の理解を深められるような学習活動を掲載している。

現代的な課題については、「いじめ」と「生命尊重」について、重点的に扱っている。各学年で、3時間扱いの複数の教材を組み合わせた構成とし、様々な側面から考えを深める工夫がされている。

「情報モラル」については、SNSを題材にした教材を全学年に掲載している。技術・家庭科と連携して扱えるように配慮している。

「生命の尊さ」を重点項目とし、各学年に3つの教材を掲載している。3年生では、職業を紹介するページを設け、進路指導との関連を図っている。

【教科書の該当箇所を委員に提示】

巻末に切り取り式の「心情円」「ホワイトボード」が付いており、教材・教具の工夫に有効であり、1年生から3年生までの全ての教科書に付いている。

また、「つぶやき」欄を各教材に設けているため、話し合い活動の助けとすることができる。これら「心情円」「ホワイトボード」「つぶやき」などを活用し、自分の考えをまとめ、話し合いに生かすことができるようにしている。

各教材ごとに、「考えてみよう！」として問いが設定されており、この問いにより、授業で学んだ道徳的価値を道徳性の育成へつなげられるよう工夫がされている。

また、鮮明で、大きな写真を載せている。これにより、教材・教具及び板書の工夫につなげることができる。

1年生の教科書には、「探究の対話(p4c ピーフォーシー)」のページが設けられ、対話を通して、様々な視点から考えを深めることができる活動について紹介している。こちらのページでは、クラス全員で円を描いて座り、「誠実とは？」という問いのもとで対話をしている様子の写真が掲載されている。「p4c」とは、子供のための哲学を略したもので、ルールが3つ掲載されている。1つ目は「コミュニティボールを持っている人だけが話せる。」、2つ目は「意見を聞いてみたい相手やまだ発言していない人にボールを渡す。」、3つ目は「考えがうかばない時や話したくない時はパスができる。」である。これにより、多様な話し合いが可能となるなど、話し合い活動の工夫につなげることができる。

学期ごとの振り返りシート「★自分の学びを振り返ろう★」が付いており、考えがより明確になるなど、書く活動の工夫につなげることができる。

「実生活における 道徳の見える化」へのつながりについては、困っている人に自分ができること、集団生活の向上のための行動、相手への気持ちの伝え方など具体的な生活に生かせる内容が盛り込まれている。

【学校図書株式会社の教科書の特長】

本教科書は、自己で課題を発見するため、教材に課題を提示し、「何を学ぶか。」

を明確にしている。主体的な学びを導き、道徳的価値を深めるような発問を用意し、「どのように学ぶか。」を明確にしている。教材ごとに書き込むスペースを設け、「何ができるようになるか。」を自己で考えられるよう工夫している。

現代的な課題については、「いじめ問題」について正対する直接教材と、日常の在り方について注目する間接教材の2種類で構成し、「生命尊重」について「生」と「死」の意味を問う教材を掲載している。「情報モラル」について情報機器を媒体として相手に接したり、情報を活用したりすることなどについての考えを深められるように教材を工夫している。

「生命の尊さ」を重点項目として、各学年に3つの教材を掲載している。小学校との連携を図った教材を選定している。

[教科書の該当箇所を委員に提示]

各教材に「学びに向かうために」が付いており、多面的・多角的に考え、学べる展開になっている。ここでは、考える視点や課題をもち議論する活動を提示した後、「見つめよう」の発問により、考えたことを自分のこととして受け止めることができるような学習の流れと発問内容を掲載している。

学習する内容項目に直結する「心の扉」のページが設けられており、道徳的価値の理解のための視点が明確に示されている。「心の扉」は、授業の導入や終末に使用することも、また、このページを単独で使うこともできる。

この「心の扉」には、テーマについて考えを書き込む欄が設けられている。こちらのページは、勤労の意義を主題とする「一房のぶどう」の教材の後に付いている。「社会に貢献するために、勤労の意義と尊さ、将来の生き方について考える。」という題名のもと、「あなたが将来してみたいと思っている職業は何か。」「その職業は、社会のどんなことに役立つものか。」「その職業は、あなたの中にどのような生きがいを与えてくれると思うか。」の3つの問いを設定し、職業について考えさせるページとなっている。この「心の扉」は、資料提示の工夫、また、ページによっては、書くスペースも設けられているため、書く活動の工夫につなげることができる。

各学年の巻末に、「保護者の方へ」のページを付け、また、「道徳の学習について家の人にも伝えよう。」という呼びかけの記述があり、学校と家庭で連携して道徳教育を進めていくことの重要性が伝わってくる。

学期ごとの「学びの記録」のページがあり、「各教材でどんな学習をし、どんなことを考えたか。」「友達の見方で印象に残ったのはどんなことか。」を記録することができ、書く活動の工夫につなげられる。

「実生活における 道徳の見える化」へのつながりについては、日常での心の弱さの克服、相互理解に努めていく姿勢、真の友情を築くために大切なことを考え、日常の言動に生かしていく内容が盛り込まれている。

【教育出版株式会社の教科書の特長】

本教科書は、対話的な学びを深めていくために、教材の冒頭に導入を設け、学習のねらいを明確にしている。また、教材末には、「学びの道しるべ」を設け、自己を見つめ、考えることのできる発問を示している。学びを振り返ることで、自己の変化や成長を実感しながら学習できるよう工夫している。

現代的な課題については、「生命の尊さを考える」、「いじめや差別のない社会に」、「情報とよりよくつき合う」を重視し、多面的・多角的に考えることができるような教材を各学年に複数掲載している。いじめや差別について考える教材については、3年間で1つのくりとして掲載している。学期をまたいで、繰り返しいじめについて考え、学びを深められるよう工夫をしている。

「生命の尊さ」を重点項目として、各学年に2つから3つの教材を、また、「社会参画、公共の精神」を扱う項目について各学年に3つの教材を掲載し、内容の系統性をもたせている。

【教科書の該当箇所を委員に提示】

教材の最初のページに意識付けをするための簡単な問いが書かれており、この問いを授業の導入として使うことができる。ここでの問いは、「毎日の生活リズムについて、大切にしていることはあるだろうか。」である。これは、資料提示の工夫につながるることができる。

「学びの道しるべ」の中に、話し合い活動を意識した発問が取り入れられている。はじめに記された「導入」により、教材に対する意識付けを行った上で教材を読み、更に「学びの道しるべ」にある3つの問いと連携させて考えを深めていくため、学習の流れとポイントが分かりやすく示され、考え、議論する道徳の授業をしやすくしている。これは、話し合い活動の工夫につながるることができる。

また、「やってみよう」のページで実際に場面を演じ、話し合う活動が取り入れられている。このページでは、ガラスを割ったことを先生に報告する場面を演じてみて、演じたことを基に、話し合う流れとなっている。これは、動作化・役割演技等の言語活動の工夫につながるることができる。

「実生活における 道徳の見える化」へのつながりについては、「やってみよう」のページにおいて、実生活で行動に移すことができる内容が盛り込まれている。

【光村図書出版株式会社の教科書の特長】

本教科書は、考え、議論したくなる授業を展開するために、めあてをはっきりと意識する工夫がされている。また、道徳的な問題を明らかにする問い、道徳的な価値についての理解や自覚を深める問い、価値の一般化を意識した問いの三つの発問で構成されている。また、学びを振り返り、自己の変容を実感できるようなコーナーを設定している。

現代的な課題については、「いじめ問題」、「情報モラル」について、教材の直後に「COLUMN」を組み合わせており、学びを深め、関連付けて活用できるようにしている。「生命を大切に作る心」の育成に重点を置き、各学年に3つの教材を掲載して、様々な視点から命について学びを深められる工夫をしている。

「生命の尊さ」を重点項目として、各学年に3つの教材を掲載している。1年間を4つのシーズンに分け、系統性、連続性のある学習にすることで、見通しを持たせられるよう工夫している。

【教科書の該当箇所を委員に提示】

この教科書では、1年を4つのシーズンに分け、それぞれのシーズンに各学年のテーマを設けて学習を進めやすくしている。これは、資料提示の工夫につなげることができる。

1・2年生の教科書に掲載されている、「他者との対話」だが、この中では、対話することの大切さを述べている。これは、話し合い活動の工夫につなげることができる。

教材ごとに「てびき」が1ページずつ掲載されている。「学びのテーマ」ではめあてを、「考える観点」「見方を変えて」では発問内容が挙げられ、学習や話し合いの流れが分かりやすく示されている。また、その下の「私の気づき」には、6行から7行で自分の考え等が記入できるようになっている。これは、書く活動の工夫につなげることができる。

「COLUMN」には、体験的な活動例が例示されている。このページは「いじめについて考える」という見出しで、いじめの傍観者の気持ちについて考え、話し合う内容となっている。これは、動作化・役割演技等の言語活動の工夫につなげることができる。

教科書の最後に、「学びの記録」のページが設けられている。ここでは、シーズンごとに学んだことや考えたことを自由に書くことができる。これは、書く活動の工夫につなげることができる。

「実生活における 道徳の見える化」へのつながりについては、教材ごとに、てびき「つなげよう」が示されていることで、実生活や他の教科でどのように生かしていくのかがわかりやすくなっている。

【日本文教出版株式会社の教科書の特長】

本教科書は、主体的な学びの実践のために、小学校、中学校、高等学校の連携への配慮をし、各学年に大テーマを設定している。問題解決的・体験的な学習の手法に適した教材には、「学習の進め方」を設定している。また、「道徳ノート」で、道徳的価値の理解を深め、「考え、議論する道徳」を実現できるようにしている。

現代的な課題については、「いじめ」については正面から向き合うことを重要点と

し、複数の教材とコラムを組み合わせ、「生命の尊さ」については、その連続性や有限性を深く考える内容を取り上げている。「情報モラル」については、節度ある情報活用能力の育成に向け、自律心や規制などの内容を取り上げる工夫をしている。

「生命の尊さ」を重点項目として、各学年に3つの教材を掲載している。特に、キャリア教育の内容を重視し、具体的な職業を挙げた教材を多く扱っている。

【教科書の該当箇所を委員に提示】

挿し絵が大きく鮮明であり、生徒の興味、関心を高められるなど、資料提示の工夫につなげることができる。

問題解決的な教材には「学習の進め方」が載っていて、授業の展開がイメージしやすくなっている。また、道徳的な活動の流れも提示している。体験した後に必ず話し合う場面設定になっている。これは、動作化、役割演技など言語活動の工夫につながる。

この教科書は、教材と「道徳ノート」の2冊構成となっている。

「道徳ノート」の特長としては、友達の意見を記入する欄が設けられており、多面的・多角的に考えられるように配慮されている。

学期末の振り返りのページがあり、学んだことを心に留めることができる。また、保護者記入欄があり、家庭と学校の連携が図れる。これらは、書く活動の工夫につなげることができる。

「実生活における 道徳の見える化」へのつながりについては、「学習の進め方」において、動作や演技を通して考え、生活の中の行為として習慣化を図ることができる内容が盛り込まれている。

【株式会社学研教育みらいの教科書の特長】

本教科書は、3つのテーマから構成されており、深く考え、議論できるよう工夫している。授業において、「学びたい」という意欲を促す工夫があり、生徒自ら主体的に課題を発見し、解決する能力を培うことを重視している。そのために、あえて主題名を記載せず、問題意識を大切に構成、展開にしている。

現代的な課題については、いのちの教育を最重点テーマとし、「生命尊重」と「いじめ防止」に関する題材を、直接教材と間接教材の2種類で構成し、各学年において3つの教材を掲載している。「情報モラル」については、情報の扱い方や情報を扱う際の配慮など、各学年において複数掲載し、考えを深められるよう工夫している。

「生命尊重」と「いじめ防止」を重点テーマとし、「生命の尊さ」の項目については、各学年ごとに3つの教材を掲載し、系統的に学習できるように工夫している。

【教科書の該当箇所を委員に提示】

8社のうち、大きさが最も大きい教科書である。また、絵や写真がたくさんありカラーで見やすい構成となっている。これは、資料提示の工夫につながる。

各教材において、あえて本文より前に主題名を表示しないことにより、生徒が主体的に問題意識をもち、教材を基に、他者と話し合い、自己との関わりを問い直し、人間としての生き方について考えを深めることができるようにしている。これにより、教材・教具の工夫につなげることができる。

「深めよう」や「クローズアップ」に自分の考えを記入するページがあり、考え方の選択肢を増やす工夫が見られる。3種類の特設ページ「深めよう」、「クローズアップ」、「クローズアッププラス」を設け、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れたり、生きる上で必要な考え方に関する選択肢を増やしたりと、学びの視野を広げる工夫をしている。これは、動作化、役割演技などの言語活動の工夫につながる。

「深めよう」のページに話し合い活動の流れ（「自分の考えを整理」→「ペアやグループで話し合い」→「振り返り」→「踏み出そう」）等が示されていて、取り組みやすくなっている。このページでは、2人組になって、2つの心の対話を演じてみようというテーマのもと、「欲望」と「良心」の2つの心の立場にそれぞれなって、心の中での対話を再現し、役割を交代し、考えたことを話し合い振り返る。最後に、「心の弱さに負けない為に必要なことを考え、これからの行動に生かそう。」と記載されている。これは、話し合い活動の工夫につながる。

「実生活における 道徳の見える化」へのつながりについては、「クローズアップ」等で、学習したことを具体的な生活に生かせるページが多く盛り込まれている。

【廣済堂あかつき株式会社の教科書の特長】

本教科書は、多面的・多角的なものの見方や考え方ができるように、教材ごとに学習の手がかりである、「考える・話し合う」を設け、めあてと問いを示している。

「道徳ノート」は、内容項目別に構成され、活用することにより、道徳的諸価値への理解を深め、効果的にねらいに迫れるよう工夫している。

現代的な課題では、「生命の尊さ」については、各学年において3つの教材を掲載し、生命を様々な視点で捉えられるよう工夫し、「いじめ防止」については、生徒の発達の段階に応じて複数掲載している。「情報モラル」や持続可能な社会について、自分のこととして考えられるような教材を全学年に掲載し、巻末の特集ページは他の教育活動と関連を図れるように工夫している。

「自主、自律、自由と責任」、「思いやり、感謝」、「生命の尊さ」、「よりよく生きる喜び」を重点項目として、各学年に3つの教材を掲載している。

【教科書の該当箇所を委員に提示】

教材ごとに、「考える・話し合う」を設定している。その中で、「学習の手がかり」と「考えを広げる・深める」の2つの項目を設定している。「考える・話し合う」には学習のめあてがあり、生徒が学習の見通しをもち、主体的に学べるよう工夫され

ている。「考えを広げる・深める」の問いにより、道徳性の育成へつなげることができるようになっている。これは、話し合い活動の工夫につながる。

また、各教材末に、学習する内容項目に沿った、先人や現代に活躍する人々の名言が掲載されており、生徒の価値理解を深めることができる。このページに掲載されているものを紹介すると、高村光太郎氏の「僕の前には道はない 僕の後ろに道は出来る」である。これは、教材・教具の工夫につながる。

本冊と別冊ノートの2冊が一体となっている。これは、書く活動の工夫につなげることができる。

「実生活における 道徳の見える化」へのつながりについては、「道徳ノート」のページによっては、「これから、〇〇について、どうしていききたいか。」「これから〇〇についてどんなことを大切にしていきたいか。」といった問いが設定されており、これからの生活について考え、実践していく機会を設定している。

【日本教科書株式会社の教科書の特長】

本教科書は、価値観の多様性を受け入れる寛容な心を育むことを重点とし、身近な事例や、社会においての自分を考えさせる教材を多く掲載している。生徒の発達の段階を考慮した教材を掲載し、問題解決的な学習、体験的な学習ができるように工夫されている。

現代的な課題については、いじめ防止の根底として、「生命を尊ぶ」態度が不可欠として、生命尊重への学びを深める教材を各学年において複数掲載している。「情報モラル」については、現代社会では生活に欠くことのできない情報機器との関わりについての教材を各学年に掲載し、自分のこととして話し合えるような工夫をしている。

「友情、信頼」を重点項目とし、「いじめ」をテーマに「生命の尊さ」を考えさせる教材を、各学年に3つ配置している。

【教科書の該当箇所を委員に提示】

どの教材にも、最後の部分に「考え、話し合ってみよう、そして深めよう」というコーナーを設け、話し合い活動を取り入れやすくなっており、話し合い活動の工夫につなげることができる。

いくつかの教材の後に、その教材と関連のある資料等を掲載している。このページは、「いのち」のつながりについての、その前の教材「誰かのために」に関連した内容であり、これは、教材・教具の工夫につながる。

「実生活における 道徳の見える化」へのつながりについては、「考えてみよう」や「話してみよう」において、自分にできることについて考えさせるページが数か所設定されている。

以上、8社について、特長を説明した。

教科書選定委員会では、本市が進めている「道徳の見える化」の視点から教科書を選定した結果、次の2社を推薦する。

【推薦】東京書籍株式会社

特に、「心情円」、「ホワイトボード」は、道徳科の授業における子供の心の変容の見える化が可能になり、「道徳の見える化」の方向性をイメージできる教科書である。また、これ以外にも、授業における工夫につなげられる内容が多く盛り込まれており、話し合い活動、書く活動、動作化、役割演技などの言語活動、毎時間の板書における多くの工夫を可能にする。このことにより、生徒一人一人が、自分自身の問題として道徳的価値に深く共感し、主体的に道徳的実践ができる力を身に付けることができる。また、本市の重点課題の1つである、「生命の尊さ」を重点的に扱い、各学年において3時間扱いの複数教材を組み合わせたユニット構成となっているため、深く学習することができる。

【次点】光村図書出版株式会社

この教科書においても、授業における工夫につなげられる内容が多く盛り込まれている。特に、各教材末の「学びのテーマ」により、テーマに迫る観点や、学びを更に深める観点、関連図書の紹介等を教材の特質と合わせて示し、学びが日常生活につながるよう、道徳性の育成を図る工夫がされている。こちらも、本市の重点課題の1つである「生命を大切に作る心」の育成に重点を置き、様々な視点から命について学びを深められる工夫をしている。

(質疑)

委員から、教材について、教材のはじめの問いの有無や最後の発問の数の違いがあるが、教員はどう扱うのかとの質問があり、選定委員長から、本市では「導入、展開、終末」の流れを基本として、見える化のための工夫に取り組んでおり、学校として授業の進め方を研究、研修しているとの回答があった。

委員から、どの教科書も現代的な課題として「いじめ」「生命」「情報」というのが出てくるが、現代的な課題とは具体的にはどんな例があるかとの質問があり、選定委員長から、学習指導要領において「食育、健康教育、消費者教育、防災教育、福祉に関する教育、法教育、社会参画に関する教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育」が示されているとの回答があった。

委員から、荻野吟子女史が東京書籍の2年生で掲載されていて喜ばしいと感じるが、教科書を使用するに当たって、熊谷市の郷土や歴史については、これまでどお

り深く学ぶことができるのかとの質問があり、選定委員長から、教科書は主たる教材であり、これまで文部科学省や埼玉県教育委員会が発行した教材を、教科書の教材と入れ替えて使用することができ、学習指導要領において、教材について留意するものとして「伝統と文化」「先人の伝記」も含まれていることから、引き続き、熊谷市の偉人について深く学べるような指導計画を立てていくことが必要であるとの回答があった。

委員から、目次を見ただけで中学生が興味をもてるような素晴らしい工夫がされていると感じるが、内容項目の扱いについてはルールがあるのかとの質問があり、選定委員長から、学習指導要領において、「指導計画の作成にあたっては、各学年で全て取り上げることとする」と明記されており、各学校において、特別の教科道徳の指導計画を作成するに当たっては、生徒や学校の実態に応じて3年間を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を密にした指導、一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れるなどの工夫が求められるとの回答があった。

委員から、東京書籍の教科書は、心情円とホワイトボードが付いていて「道徳の見える化」の方向性をイメージできるとのことだが、小学校を含めてこの心情円のようなものはどの程度普及しているのかとの質問があり、選定委員長から、小学校ではほとんどの学校において、心情円のような自分の心が見える化する道具を作成、使用し、授業で活用しており、中学校でも活用が広がってきている。また、ホワイトボードについては、使用している学校もあるが、板書やワークシートの活用は全ての学校で行っている。本市で着実に進めてきているこの心情円が付録として付いた教科書は大変価値があると考えているとの回答があった。

委員から、黒板を使って授業を進めていく上で、教科書で使用されているたくさんの画像や写真を有効活用できるのかとの質問があり、選定委員長から、どの教科書会社も、デジタルの教材が用意しており、その中からカラー印刷や、拡大印刷ができる。デジタル教科書が購入できる会社もあり、生徒の考えを深めたり、また、教材についての理解を深めたりする工夫につながれると考えているとの回答があった。

委員から、小学校の教科書に比べると、動作化、役割演技の部分が少ないように思うが、意図するところがあるのかとの質問があり、選定委員長から、中学生については、動作化や役割演技を行わなくても、道徳的価値の意義などについて考えを深めることが重要であり、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するための資質・能力を育成するように十分留意しながら進めていくというこ

とが大切であるとの回答があった。

委員から、話し合いや議論について、進め方の記載がある教科書とない教科書があるが、話し合いの進め方はどのように決めるのかとの質問があり、選定委員長から、教科書によっては示されている「話し合いについての流れ」は、あくまでも参考例であり、道徳科の授業をはじめ、学校では多くの授業、場面で話し合う活動が行われている。教科書において例を示すことで、授業が進めやすい教員や、話し合いに入りやすい生徒がいることも事実である。各学級で、授業が進むにつれ、それぞれの話し合い方で、考え、議論する道徳を展開していくなかで、同じ方法で進める場合も少しずつ方法が変化していく場合もある。教科書に例示されているということは、とても有効であるとも考えているし、各学校での教材研究や研修等で進め方についても研究を深めているとの回答があった。

委員から、学習指導要領では道徳科は数値で評価を行わないとされているが、本市では、具体的にどのように評価をするのかとの質問があり、選定委員長から、ラウンド制の考え方に基づき、「だめだしをしない、はじめから否定しない、褒める、繰り返して褒める、よいところを褒める」記述による評価をする。学習指導要領に示されているとおり、数値による評価は行わず、記述をすることで、子供たちの道徳科の授業において、褒め、励ます評価を進めていくとの回答があった。

教育長から、ラウンド制の「だめだしをしない、褒める、励ます」という考え方は、英語に限らず全教科に反映させようということだが、特に道徳は「褒め、励ます」評価となる旨の説明があった。

教育長から、熊谷市で使用する教科書を選定するに当たり、最優先に「子供たちにとってよい教科書か」、次に「それを扱う教員にとってよい教科書か」という観点で選んでいるか確認する発言があり、選定委員長から、そのとおりであるという回答があった。

(質疑終了)

教育長から、次のとおり発言があった。

○教育長 教科書選定委員長から、以上のとおり推薦があった。これらの推薦を参考として、休憩後に、議案第32号及び議案第33号について、採決を行う。

(休憩)

(選定委員長、選定委員及び傍聴人退出)

(再開)

(採決については非公開)

【議案第32号「平成31年度使用小学校用教科書（特別の教科 道徳を除く）の採択について」の採決結果】

国語、教育出版株式会社
書写、教育出版株式会社
社会、東京書籍株式会社
地図、株式会社帝国書院
算数、東京書籍株式会社
理科、教育出版株式会社
生活、東京書籍株式会社
音楽、株式会社教育芸術社
図工、開隆堂出版株式会社
家庭、開隆堂出版株式会社
保健、東京書籍株式会社

【議案第33号「平成31年度使用中学校用教科書（特別の教科 道徳）の採択について」の採決結果】

東京書籍株式会社

日程第2（議案第34号）（議案第35号）

(非公開)

(議案は原案どおり可決)

日程第3（その他）後援等承認決定した事業一覧について

教育総務課長から、6月16日から7月15日までに、後援等承認決定した事業について報告があった。

日程第3（その他）国史跡指定記念『幡羅官衙遺跡群』特別展について

社会教育課長から、国史跡指定記念『幡羅官衙遺跡群』特別展の開催に関する報告があった。

日程第3（その他）読書通帳について

文化センター所長から、ラグビーワールドカップ2019日本大会版表紙の読書通帳を新たに作成し、配布を予定していることについて報告があった。

